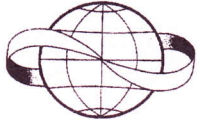


# ヴィーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



## 第18号

発行 東多摩再資源化事業協同組合  
 理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志  
 東京都東村山市久米川町 1-16-18  
 Tel&Fax 042-395-9788

### 新世紀は

### ダイエットの時代か

『二一世紀の初春を迎え、心からお慶び申しあげます。』

WWF (世界自然保護基金・本部スイス) が昨年十月発表した報告書によると、「人類すべてが欧米や日本人のように資源を浪費し、CO2を大量に排出する生活をすると、地球がもう二つ必要になる。」と警告している。

オランダのハーグで開かれたCO2削減国際会議では、先進国間でもその取り組み方に格差を露呈し、米国代表の顔にピザをなげる事件がおこった。あの屈辱的な映像は米国に同調した日本代表の姿でもあったと思う。

後ページに視察報告したが、タイ国民一人当りの年間紙消費量は二七kg・ベトナム国民は僅か二kgとのことだった。元旦に配られた新聞と折込チラシそして年賀状を計って見

ると、二kg近くになってしまふのだ。

とは言っても、先進国が急激な減速を行えば、最も打撃を受けるのが途上国であることも事実で、文化やライフスタイルの相違も簡単に埋めることができない。

それでは今、我々がしなければならぬことは何だろうか。循環社会基本法で一番に掲げた「発生抑制・リデュース」

は、国の経済政策を見ても、まるで逆方向を向いている。価格破壊や大量消費の風潮も勢いを増している。

次に進める「再使用・リユース」も、例えば今の容器包装リサイクル法ではリターナブル容器を次々と駆逐してワンウェイビンやペットボトルに変わっている。

大量消費の抑制は、言うは易く行なうは難しとなれば、せめてリサイクル可能な資源は完全に回収し、100%再利用する方法を確立しなければならぬ。

まず、世界中から集めた資源を、日本国内だけで再利用などできる訳が無い。余剰な物は、リサイクル業界の義務として速やかに途上国に還元するシステムが必要である。

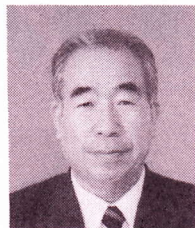
次にリサイクルし易い素材を、消費者が徹底して選択する運動をすることだ。難リサイクル品や禁忌品としてランクされているものは極力購入しない。同時にそのメーカーに消費者一人一人が改善を要求する。資源業界としても禁忌品となる商品名の公表や、正しい資源循環のあり方、低コスト高品質の回収方法などを広く訴えてゆきたい。また行政は積極的に品目別の回収コストを開示して市民に情報を与えてほしい。リサイクルをごみ対策のためではなく日本の文化として育てたい。直言拝聴『紙は文化のバロメーター』をご寄稿頂いた高柳様は、まさに日本の紙資源の完全循環をめざす中枢機関を担ってご指導頂いている。

## 直言拝聴

## 紙は文化のバロメーター

財団法人古紙再生促進センター専務理事

高柳晴夫



私が物心付いた頃から「紙は文化のバロメーター」と良く言われている言葉があり又良く紙面でも見る事が多い。これは考えるに文明或いは文化が進んだ国が紙の消費が多いということか、裏を返せば紙の消費の多い国は文化が進んだところなのか？

1999年の紙(含、板紙)の消費量の多い国一番から十番まで順に並べると米国、中国、日本、ドイツ、英国、フランス、イタリア、カナダ、韓国、スペインとなっている。米国は別として、最近中国の紙消費の伸びは大きく前年対比で日本は60万トン程度の増加に対して中国は約240万トンもの消費増となっている。前述した十カ国をご覧になって皆さんはまだ他にあって良い国が在るのでは？と、お思いでしょう。そうです各国の消費量を比べただけではそれぞれの国の人口

が違いますので、それぞれの国における一人当りの年間紙消費量で対比するのが妥当だと思います。

表1、1999年世界上位二十カ国の一人当り年間紙消費量をご覧になって下さい。

如何ですか？ある程度「紙は文化のバロメーター」と言っても良い様に文化が進んだ国が多いと思いませんか。

もう一点、ここ二三年は少しずれてきてはいますが、過去数十年はGDP(国内総生産)の伸び率と紙・板紙の内需の伸び率はほぼ一致して成長してきております。これは日本の経済と紙の消費は切っても切れない縁があると思っております。先ほど述べました中国の紙消費量の伸びが高いのも中国の最近の経済成長率が高い事による事が頷けます。これらの事から紙と文化の係わりは昔からかなり深い関係にあることだと思

ます。

それでは、紙は何時頃から使われて居たのでしょうか？色々な説があり色々本で調べてみましたが、前漢武帝時代の紀元前140〜87年頃のもののみられる瀟橋紙が世界で現存する最も早い植物繊維の紙と言われているのが現在のところ妥当のようです。

それは、1957年中国の陝西省の瀟橋にある煉瓦場が発掘されその中に紙のような切れ端が見つかり分析の結果、麻で出来た紙であることが確認された。(現在、日本でもタバコ用として麻入りの紙が使われている)この麻紙は、「瀟橋紙」と呼ばれ現在中国歴史博物館と陝西省博物館に陳列されているようですが、一度行けたら、行って見て来たいと思っております。従って、製紙術は中国前漢の人達が発明したものとされています。



日本に紙の技術が伝えられたのは「日本書記」によると西暦610年の推古天皇時代とされています。では紙リサイクルによる再生紙の歴史はどうなのだろう。記録として「日本書記」に平安時代に清和天皇の女官藤原多美子が生前天皇から贈られた手紙を漉き返して経文を書き写したと記されている。従って清和天皇の在位が西暦850〜880年であることから推測すると紙の技術が日本に入ってからそんなに経たないうちから再生紙は作られていたと考えられます。その後平安時代末（西暦1100年頃）には紙を抄き返すことが盛んに行われていたと言ふことで再生紙の歴史も古いのです。

資源の少ない日本が、現在（1999年）世界の中で紙生産量（30、631千トン）第2位、消費量（30、540千トン）第3位、一人当たり

年間消費量（239kg/人）第7位と在るのは、古紙の回収率（55.9%）、利用率（56.1%）が高いからなのです。

今、皆さんが使っている紙の半分以上が古紙から作られているのです。2000年度古紙利用率56%と言う目標（1995年に設定）は皆さんの努力により前述のように一年前で達成いたしました。本年十月までの古紙回収率57.7%、古紙利用率56.9%で2000年度も56%をクリアすることは間違いなと思います。

2001年度以降の古紙利用率目標については現在関係機関で検討中ですが、200005年度までに60%目標と言う線が濃厚です。そうなるのと紙の六割が古紙から作られたものになるのです。それを実現させるには、より良い古紙の分別、効率の良い回収、

表1. 世界上位20カ国の一人当たり年間紙消費量 (単位: kg)

国名	1998年	1999年
1 米 国	336.5	347.2
2 ベルギー	320.1	344.4
3 フィンランド	320.5	320.8
4 カナダ	238.2	246.5
5 スウェーデン	267.4	245.3
6 スイス	230.2	239.9
7 日本	237.8	239.2
8 台湾	221.9	230.7
9 デンマーク	235.1	230.6
10 オランダ	218.0	217.3
11 英国	204.2	214.8
12 ドイツ	205.4	214.6
13 オーストリア	218.7	211.7
14 香港	194.4	193.5
15 ルクセンブルグ	175.4	191.9
16 オーストラリア	177.1	184.3
17 フランス	175.4	179.9
18 イタリア	172.2	178.9
19 ニュージーランド	194.7	177.1
20 ノルウェー	175.9	169.8

資料：紙・パルプ統計年報より

更なる技術開発による古紙利用の多い紙の製造、加工、そして紙を使うユーザー、消費者の古紙利用製品の率先使用拡大が必要です。

紙の歴史そして紙のリサイクルした再生紙の歴史も古いです。資源の乏しい日本でもうすれば良いか先祖の人達は良く知っておりその伝統が今日までの紙の素晴らしい歴史を切り開いて来たものと思えます。

二十一世紀を迎えるに当り、私共紙関連業界に携わるものが、それぞれお互いに切磋琢磨すると同時にお互いに協力しあつて紙リサイクルの輪を広げることが紙業界、紙関連業界の発展ばかりでなく文化向上にも大きく貢献することに繋がる事になると思います。「紙は文化のバロメーター」と言う言葉が我々の子孫にも引き継がれます様に！

## 新世紀の抱負

### 理事長 紺野武郎

組合員全員で無事二十一世紀の初春を迎えることが出来、心からお祝いを申し上げます。各種リサイクル法が施行され、業界活動も色々と制限されてきました。

しかし、法律やルールは最低のモラルであり、我々現場で実践し、目指そうとしているリサイクル社会とはかけ離れた感があります。

緑の地球に生命維持装置を必要としない「しなやかな」循環型理想郷作りががんばります。

### 副理事長 藤本俊光

これ以上年を重ねたくないけど、誰の上にも平等に年月は過ぎてゆく。

一度しかない人生、今日より若い日は無いから、今日一日を如何に生きるかな。

### 副理事長 奥山賢児

新年明けましておめでとうございます。今年は二十一世紀幕開けの年であります。東多摩再資協も組合本部という活動の城を得て、地域のリサイクル事業の担い手として、更なる飛躍の年になるようにがんばりたいと思います。

### 副理事長 藤野昭吾

新世紀を迎え、明けましておめでとうございます。本年こそは健康に留意し、仕事はもちろんの事ですが、遊びにも頑張つて行きたい。

### 専務理事 萩原貞雄

二十一世紀には、世の中が資源循環が当たり前の事となる社会になって欲しい。資源の収集や選分が、産業全体の中で業として成り立ち、かつ物の流れの中で不可欠の要素となるようにしたい。今までこの業界は、静脈産業と

云われていたが、動脈・静脈の境が区別できないようになっているのが理想です。

### 理事 古川敏雄

新年あけましておめでとうございます。昨年に続き、今年も直ぐには景気が良くなるとは思えない。私たち組合は、一致団結によって不況打開をしなければならぬ。その為なら、骨身を惜しまないで協力をし、頑張つていきたいと思つていきます。

### 理事 土井益二郎

二十世紀最後の年も、業界・組合に取つてきびしい一年でした。新世紀に変わつても、状況は更にきびしく成ると思ひますが、組合員・従業員の皆さんに御協力を頂きながら、委託事業その他の事業に取組でいきたいと思ひます。宜しくお願ひ致します。

### 理事 川島正行

昨年中はなにかと御世話になり、ありがとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

### 監事 石川義雄

新年明けましておめでとうございます。新世紀に入り新たな気持ちで仕事に頑張ります。

### 理事 斉田康好

明けましておめでとうございます。いよいよ二十一世紀の幕開けです。新たな気持ちでリサイクル循環システムの構築、組合事業に参加協力して古紙業界と地域社会の発展に貢献したいと思ひます。

### 理事 小畑和夫

新世紀に入つても、目指すのは集団回収事業の拡大と充実です。行政回収の普及などで、集団回収を取り巻く状況



はきびしくなっておりますが、地域団体との交流を大切にしたいとがんばります。

市民の皆様、集団回収への御協力をどうか宜しくお願ひします。

### 理事 古山 忠

二十一世紀を迎え、より一層組合のリサイクル活動に専念致しますので、皆様方の暖かい御指導を御願ひ致します。

### 理事 水野 勇

謹んで新春の御祝詞を申し上げます。

二十一世紀という新世紀を迎え、私どもの業界も大企業並みの効率化や事業の再構築を求められていきます。より良い企業経営と社会貢献が出来るよう、微力ながら努力していく所存であります。皆様の今後とも変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますよう、お願ひ申し上げます。

### 理事 吉浦高志

新世紀を迎えての決意

一、不況をバネにして成長できる組合を作っていく。

二、『ヴィーナス通信』の紙面の充実と質の向上を常に目指していく。

三、プロジェクトチームを絶対に成功させる。

### 監事 田中 彰

新しい事務所の開設に当り、心よりお喜び申し上げます。

二十一世紀は、地球環境の保護が更に問われる時代となるでしょう。自然にやさしい循環型社会の構築に果たす我々組合員の役割は、益々重くなってきます。さあ皆さん、地域社会のために一致協力して頑張りましょう。

### 広報委員 奥山慎吾

新世紀明けましておめでとうございます。再生資源業界も新しい世紀を迎え廃棄物の

減量や地球の温暖化防止、ダイオキシンの発生抑制などの観点から益々注目され、再資協の社会的役割も大きくなると思えます。私も東多摩再資協発展の為がんばりたいと思えます。

### 広報委員 土井健一郎

今年、2001年新世紀の始まりです。昨年は組合事務所も新設し、新年をスタートするには相応しい門出となりました。私自身も今年、例年とはちがう気合で新世紀に望んで行きたいと思えます。

### 事務局員 柿崎正則

明けましておめでとうございます。

新しい世紀を迎え、組合新事務所で気持ちも新たに、一日も早く一人前の事務局員になれるよう仕事に励み、日々精進を積み重ねて行きたいと思えます。

雑古紙100%で完全無漂白!

地球にもお尻にも優しい!

**トイレットペーパー**  
**『ブーメラン』(100m巻)**

小中学校・公共施設等で本格的に採用!

1ケース(100ロール入り)

4000円(税・配達料込)

注文は電話・FAX・Eメールで受付ています。

電話・FAX: 042-395-9788

**当組合のホームページにアクセスを!**

最新のリサイクル情報や過去のヴィーナス通信の「直言拝聴」を見ることができます。

掲示板やEメールでのリサイクルご意見・ご質問をお待ちしています。

アドレス: <http://www.h-recycle.or.jp/>

Eメール: [ri3196@oak.ocn.ne.jp](mailto:ri3196@oak.ocn.ne.jp)

皆様からのたくさんのアクセスお待ちしております。

## 東南アジアの製紙業界事情

### タイ・ベトナム視察報告

本視察は、九州地区古紙ディラー有志の皆さんが企画され、日資連幹部が個人資格で参加させて頂いたもので、2000年11月7日より5日間にわたり両国を訪問した。

今後の回収業界に対し、事業拡大の一助になればと期待しての視察だったが、その成果は十分に感じ取ることのできる有意義なものとなった。西原団長はじめ視察団員各位・現地をご案内頂きましたニチメン(株)の皆様方そしてタイベトナム両国の訪問先関係者各位に対し心から感謝申し上げます。

#### 1. タイ(バンコク)

##### ①概況

タイ王国は、農業と観光の常夏の国であったが1960年代から急速に工業化が進んだ。現在の人口は六千六十万人で



エメラルド寺院

ある。その首都バンコクは、政治・文化・宗教・学問の中枢で、商工業圏も拡大の一端を辿っている。王室の拠であり壮麗な寺院と高層ビルが混在し、神秘的な静寂と現代的な活力の混じりあつた東西文明の合流地だ。

エメラルドの深光をたたえた仏像と黄金に輝く建築物のエ

メラルド寺院や、全身に金箔を施した巨大な寝釈迦で有名なワットポーなどの底知れぬ歴史遺産の周りを、夥しい数の車がひしめきあつて交通渋滞し大気汚染と騒音の街ともなっている。

市の登録人口は五百五拾万人だが、実際は一千万人近く住んでいると言うことで、上下水道やごみ処理などのインフラも間に合わないようだ。

特にごみ処理は深刻で、市内の埋立地は残り僅かとなり毎日出るごみ量(二日七千トン)に対し五千トンしか処理できない状態になってきたとのことだった。収集はすべて混合収集だったが、ごみの中には古紙やびん缶ペットB等の資源物は殆どみられなかった。

ニチメン現地駐在員の話では、経済は1997年の通貨危機を漸く乗り越えて、景気回復に向かつてきたが、米国の景気低迷化でまた減速に転じか

かっていると心配していた。事実、バブル時に着手したと思われる建てかけのビルが放置されているのが目に付いた。街の治安は良く、市民の活力も十分に、特にバンコク空港はアジアのハブ空港となつて活気に満ちていた。道路など公共事業の拡充次第では更なる飛躍が感じられた。

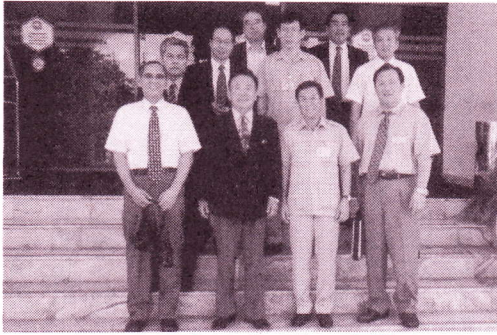
1998年の紙板紙生産量は、二三七万トンで消費量は一六〇万トン、国民一人当りの年間紙使用量は二七kgになる。

②タイクラフトペーパー社(TKIC)視察

TKICは、サイアムクラフト社(SKIC)ともに財閥サイアムセメントグループの中核を成す製紙会社でタイ製紙業界のトップ企業である。

サルート部長の話によると、抄紙機はIH I製で、生産品目はライナー・中芯・クラフト紙など、また生産能力は年間五十一万トン、従業員数は





クラフトペーパー社の玄関で

五百二十人とのこと。原料は五十%が国内古紙、残りは米国・日本・欧州・シンガポールなどから輸入している。国内古紙はミックス古紙でかなりの低品質だった。日本の段ボール古紙も月間七千トン程使用していて、品質は高く評価し価格が折り合えば今後とも継続使用したい考えだった。古紙価格はOCC(段ボール古紙)着値で一二五から一三〇ドル/トン(日本場渡し

九・五円/kg程度)だったが、十二月には六円台に下落した。③資源回収業界の現状 今回の視察では、直接回収業者を訪問する機会は無かったが、同行の高木・角両氏が昨年調査した結果そしてニチメンの浜島氏から話をまとめた。パッサムリサイクル社は、従業員八〇人で多種類の再生資源を扱っているディラーだ。この業者の取扱品と比率を見ると、鉄屑五十%・びんボトル四十%・プラスチック五十%・古紙五%と古紙の比率は低い。しかし代納分も合わせると月間六千トンの古紙を直納していると言う。このような問屋はバンコクに九社あり、いずれも古紙のウエイトは低く、古紙仕入れ価格もkg当たり四バーツ(十二円)以上と高くて余り利益がでないと言っている。古紙プレス機はその問屋従業員の手作りで、ベラー品も

百kg以下の極小さなものだった。バンコク市内のごみの収集は夜間に行うようで、資源の回収車両も日中は殆ど見かけなかった。

## 2. ベトナム(ホーチミン)

### ① 概況

ベトナム社会主義共和国の人口は約七千七百万人、長い悲惨な戦争の後遺症を抱えながらも、豊富な労働力で商工業化への道も確実に進んでいる。ハノイは政治の中心地だが、ホーチミンは工業地帯として飛躍が期待される。

そのホーチミン空港の滑走路におけると、大戦の名残と思われる色々な軍事施設が目に見え込んできた。バスで市内に入ると、道路という道路いっばいにバイクと自転車が走っていて、その中を車が浮かんで流されて行くような感じがした。

道の両側には色々な物売りの屋台が並び、その周りに連



ホーチミン市内

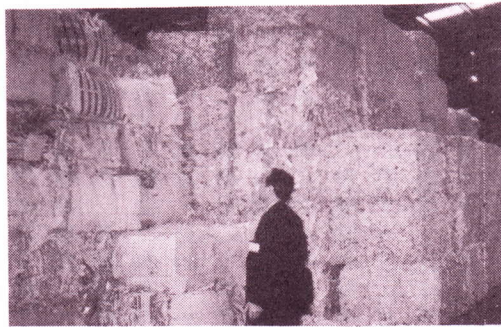
座している人の数も多い。商店街は観光客も多く活気に満ちていたが、中央市場には生きたアヒルから食料品・雑貨家電・貴金属とここで買えない物が無いと言う沢山の店が並んでいる。ホーチミンは働く町といった感じで観光遺産などは少ないが、戦時品展示会場には軍隊の装備やゲリラの使った武器・戦争の悲惨な写真などを集め、新たな涙をさそった。



本格的な製紙産業は始まったばかりの感があり、国民一人当たりの年間の紙使用量は、僅か2kg（日本人240kg）とのことだった。

②タン ベット フウ（古紙輸入ディラー）

パオ部長に話を伺った。ベトナムでは、95年から古紙輸入をはじめたがまだ市場は小さい。それでもこのディラーは、六七十社の製紙メーカーに月四千トンの古紙を納入している。欧米日シンガポールからOCCやオフィスパック（込頁）を主に取り扱っていた。日本のOCCは値段は高いが品質が最高とのこと、今後量が増えればフレイト代が下がり十分に取引拡大が期待できそうだ。欧米物は開梱して選別し直してから納入しているとのことだった。ポルノ雑誌の検察は厳しく、見つければ多額の罰金を取られるそうだ。



ニュー・トーヨー・ティッシュペーパー社

③ニュー・トーヨー・ティッシュペーパー社（家庭紙メーカー）

オワン工場長と資財担当のホワン氏に会う。この会社は本年四月落成し、シンガポール資本で設備は三栄レギュレーターのマシンを設置した。純パルプ用一機、純パルプ+古紙用一機で最大日糧九十トンの生産能力がある。

古紙使用量は月一五〇トンでミルクカートンとカラーレジ

ヤーを輸入している。欧州物の価格はカラーでトン一七〇ドルとのことで、現物を見たら金銀のアルミコートやスキ色等、日本では禁忌品となるものが大量に含まれていた。「別に問題ない。製品を見てくれ。」が答えだった。ただポルノは厳禁でシュレッダしたもののしか取れないとのことだった。

トイレットロールの価格は信じられないほど高く、二八びん巻き二個入りで一ドル（百十円）で市販し、ベトナム全土をシェアーにしてさらに増産を計画していた。

④アン・ビン社（段ボールメーカー）

ウワン社長が直々に應對し説明してくれた。完全民間会社で92年に設立、中芯とカートンボックスを生産し、クラフトライナーは日本より輸入している。抄紙機は小型ものが十機あり、月千五百トン

の古紙を使用している。OCCが主でミックスペーパーも買っている。七十%以上が輸入古紙で、残りは国内古紙をつかっていた。日本のOCCも輸入しているが品質がよく、今後さらに増やしたく近日訪日の予定とのことだった。

そのOCCは横浜港から出たもので、新聞古紙や下ボールなどが相当量混入していた。とても高品質とは言えなかったが、とりにあるフランス

の古紙には廃プラが沢山混じっていて納得した。現在ベトナムは、年間1万5千トン程度のOCCを輸入しているが、来年はその倍ぐら

いは使用する計画があるそう、日本のサプライヤーはくれぐれも粗悪な品質の古紙輸出で信用を損なわないようお願いしたい。

わが古紙業界としても、始まったばかりのベトナム製紙産業に大いに期待できそうだ。



## 第八回TAMAとことん討論会開催

昨年十月二一日(土)・二二日(日)、同討論会が、「耕そう循環型コミュニケーションTAMA発 環境の世紀に向けて」というテーマで開催。

全体会は、東京・八王子市の多摩ニュータウンで酪農家を中心となって進めている生ごみ堆肥化処理活動、東京・八王子市のごみの減量・リサイクル推進都市を目指すための取り組み、東京・日野市の市民中心の環境基本計画作り、ごみ改革などについてのリレー講演が行われた。

分科会は、六分科会に分れて実施。

第六分科会では、『資源リサイクル ここが問題!』というテーマで、各部門毎の現状報告が行われた。

## ①びん

現在、大量生産・大量消費社会の中で、使い捨て容器の

利用が増大している。この回収処理は、地方自治体の負担が大きい。公金の無駄遣いを減らし、販売店・消費者の自己責任で管理できるリターナブルびんの普及が課題。

## ②カレット

現在のガラスびん生産量の減少の原因は、再生利用が難しい輸入ワインびんの増加、ペットボトルの急増、アルミ箔製のラベル問題などがあげられる。

そこで、ワインは樽で輸入し国内でびん詰する、ペットボトルの使用を減らす、ラベルは紙製のものなどにするといった解決策を図ることが課題である。

## ③金属

現在、製鋼原料である鉄屑の価格は、長期間、低水準のまま動いている。ジュース缶などのスチールプレスは、高

炉メーカーでの利用により、需要が増えている。

自動車は、中古車事業者や新車販売店から排出され解体処理されるが、そのリサイクル率は七〇%となっている。しかし、廃自動車から発生する残渣の最終処分場の不足、自動車メーカーと解体処理業者との企業格差が大きいなどといった問題点もあり、今後の課題である。

また廃家電製品は、一三年四月一日より施行される「家電リサイクル法」によって、廃家電製品のリサイクル費用は、消費者の負担が義務付けられるようになる。

## ④古紙

古紙は、七、八年前の高度経済成長期には、回収量と消費量の需給のバランスと価格の上下が比例するという、市場原理による需給の調節が働くという状態であった。しかし、バブル経済の崩壊

後は、古紙価格が大きく下落したにもかかわらず、回収量の減らない分を輸出に回すという古紙の余剰という事態になった。

今後は、もとのように古紙の市場原理による需給の調節が働くようになることを願いたい。

## ⑤古繊維

古繊維リサイクルの現状は、需要・供給・古繊維業界のミスマッチにより、回収された古繊維の中に、禁忌品やリサイクル不能品が多く混入してしまっていることである。

また、古繊維の再生商品の利用率が低いことも問題である。

そこで、禁忌品・リサイクル不能品の行政施設への返還、古繊維再生商品の開発、リサイクル製品の使用促進などを提案したい。

以上、各部門ともそれぞれの問題点の解決に真正面から

取り組み、未知の部分の開拓を始めるなど、将来の循環型社会の構築に向けて前進する姿勢を感じることが出来た。

## オフィス古紙全国サミット開催

去る一二月十二日、銀座ヤマホールで開かれた。

### 〔基調講演〕

日本製紙株式会社専務取締役技術本部長 坂 莊二氏

紙・板紙の国内生産は、年間三千万トンで、輸出入は生産・消費の5%未満と低く、完全な内需型産業といえる。紙の主原料の消費比率は木材パルプ四七%に対し、古紙パルプ五三%と古紙パルプが半分以上占めている。紙の原料全体としての自給率は六七%と高水準を維持しているが、これには古紙の活用が大きく寄与している。民間による経済原則に沿ったリサイクルシステムが中心になり、行政が行うゴミ処理コストより安価であることや、徹底した分別

回収による負荷の軽減、古紙品質の高さなど総合的にみても最も優れたリサイクルシステムが確立されているからだと評価できる。

一九九九年度に古紙利用率で目標の五六%を達成できたが、上質系印刷情報用紙は古紙利用率が低く、今後の利用率拡大の鍵を握る品種である。オフィス古紙の分別回収が全国の小規模オフィスにまで広がり、循環型社会の構築に、大いに寄与するものと期待している。

### 〔講演〕

『オフィス古紙回収と製紙メーカーの役割』

北上製紙株式会社代表取締役社長 町田正三氏

一関市で実施したオフィス

古紙回収システムモデル事業製紙会社を中心として岩手県一関市周辺の企業団体と古紙回収業者、三者が連携を取りながらスタートした。参加事業所数四〇、回収車が週二回を基本として、事業所をふり分けた回収を行い、直接北上製紙に搬入する。

(対象古紙)新聞・雑誌・上質・段ボール・機密書類等オフィスから発生する古紙。(機密書類回収システムの概要)一、専用の機密書類箱を使用。二、禁忌品は必ず取り除く。三、回収車が決められた日時に回収。四、担当者立ち会いのもと引き受個数を確認し預かり証を発行。五、北上製紙に密封のまま直接搬入。六、個数確認の上パルパー(溶解槽)に投入。七、溶解証明書を発行。八、溶解立ち会い、自車での直接搬入も可能。機密書類は段ボールの中芯に再利用する。

『オフィス古紙リサイクルの新たな展開・ボランティア活動から事業化へ』

とやま古紙再生サークル事務局次長 別森 敬一氏

今まで作りあげてきた古紙回収サークルの中から機密書類の処理を独立させて、別会社を作った。独自規格を設けた処理体制、セキュリティ・センターの安全対策は外部認定を受ける予定。

これからの組合事業の中にオフィス回収と機密処理は必要不可欠だと感じた。

## 古紙利用新製品紹介

プラスチックの代わりに古紙を使ったボトルの成型技術が、花王によって開発されました。材料構成は、八五%以上が紙で、分別回収体制が整えば、ボトル原料として再利用でき、強度はプラスチック並で、生産コストも大量生産



すれば同程度かそれ以下になるそうです。今のところ粉末や固体向けですが、シャンプーなどの液体にも使えるよう改良するそうです。

### 集団回収の盗難被害 対策に御協力を！

最近、集団回収において、団体が回収を委託した以外の業者による資源物の盗難被害が増えてきています。

当組合としても、このような行為に対して対策を講じるべく、被害届用紙（組合用）を作成しました。

集団回収は、回収団体がリサイクル運動として、また回収で得た助成金は、団体の活動資金や行事などを行う上で貴重な運営資金となっており、資源物の盗難被害は嚴重に取り締まってゆかなければなりません。

盗難現場を目撃された方は、

集団回収を委託している業者に至急連絡をして下さい。直ちに被害届を作成し、警察署に被害届を提出いたします。（尚、目撃した場合、場所・時間・業者名及び車両ナンバーなどを控えて下さい。）

### ヴィーナス短信

● 昨年十月一四日清瀬市リサイクルフェアに、また同二二日東村山市リサイクルフェアに参加。

古紙など資源物の分別教室や、当組合ブランド品のトイレットペーパー「ブーメラン」の販売を行い、市民の皆様に対しリサイクルに対する意識をより一層高めてもらった。

● 昨年十二月四日、多摩リサイクル事業団体連合会（多摩R団連）の二十名が、柳泉園・小平の両リサイクルセンターを視察した。

この視察は東多摩再資協が当番となって運営したもので、両リサイクルセンターでの資源選別作業を見学し、それぞれの行政のリサイクル推進担当者から話を聞いた。最後に国分寺市で打ち上げをした。

### 本年4月1日より

### 廃家電のリサイクル

### ルが義務化へ

今年の4月1日から家電リサイクル法が施行される。

今までは各市町村で粗大ゴミなどで回収されていたが、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコンの4品目については、この法律にもとずいて家電メーカーが回収する事になった。回収の内容については、消費者が2千5百〜5千円を負担し商品を購入した小売店に

引き取ってもらい、メーカー指定機関に運搬し、メーカーやリサイクル専門業者の再商品化拠点に持ち込まれて解体され、リサイクルされる。その際の運送費は消費者負担となり処理費との抱き合わせとなる。

問題は今まで独自で廃家電を取り扱っていた業者がこの法律の為に自由に扱えなくなる事態になる。

国は今まで家電はリサイクルされていまいと言う考えで、この法律を作ってしまったのだらうか？既存の業者にどう対処するのだらうか？

廃棄物に対しての消費者負担と言う考えは、これからとても大切な事だが、それを製造しているメーカーの負担がまだまだ軽いのではないだろうか。今後は、簡単にリサイクルできる素材や設計の再検討で、環境負荷の少ない製品作りをしてほしい。

## 私の履歴書

(尙萩原紙業)

代表取締役社長萩原貞雄

私は、昭和十三年五月二十四日、東京都立川市曙町で生まれました。

家族は、両親と兄二人・姉二人と私の七人で、私は五人兄弟の末っ子でした。両親は、父が今から十五年前、母が今から十年前に亡くなりましたが、他の四兄弟は、今も元気で、それぞれ独立しています。

少年時代は、立川市の曙小・第二中に通う普通の少年でしたが、一方で中学時代には陸上の選手として東京都大会に出場するなど、運動神経に優れた活発な面もありました。

中学卒業後の昭和二十九年四月、東京都中野区にある資源物回収問屋の協和資源㈱に住み込みで入社しました。たまたまこの会社の当時の窪田由丸社長（元東京都資源回収事

業協同組合第八代理事長）が、私の母の弟であり、母の勧めもあつての就職でした。

協和資源㈱は、最初は建場業者・坪上業者からの資源物の引き取り業が主流でしたが、私が入社してから五年目には静岡の本州製紙への直納問屋も兼ねるようになりました。

またこの当時は、古紙・古布の他に、缶詰めの光缶（ブリキ細工のオモチャの材料）・電球・ラジオの真空管・しょう油の桶・一斗缶・コウモリ傘・男物の革靴・ニリットルのしように油ビン・ポケットウイスキーのビン・牛乳ビン（割れたもの）といったものまで扱っていました。

また当時は、新聞を一貫目につき六〇円（一kg一六円）で買い取るなど、今では考えられないような高値で取引をしていました。

私は、ここで昭和二十九年から三十九年までの十年間修業を積

みました。この十年間のうち、七年間は小僧として、残りの三年間は番頭として修業に励みました。

修業中の主な仕事は、建場業者に引き取りに行き、あら縄で縛った新聞などを、一個五〇kg、一日五〇〜六〇tもバーハンドルや丸ハンドルの三輪車のトラックで、貨物列車の停車駅まで運搬し、一五t積の貨物列車に一杯になるまで積み込んで本州製紙まで送るという作業でした。

時には、重い新聞などを肩に担いで積み込む作業もするため、肩から血が流れてタコができるほどつらい作業でしたが、修行中から古紙その他資源物の回収業に興味を持ち、将来は一人前の建場業者として独立する決意を固めていたため、その目標達成のために耐えて努力しました。

またこの他にも、地方から仕入れに来た古着商に、古着

（ジャンパー、作業ズボンなど）を、親方に替わって一着づつ値踏みして売る仕事や、一般住民から家庭の不用品・所帯道具一式を買い取るような仕事もしていました。

やがて、修業中の昭和三六年五月に結婚し、修業終了後から一ヶ月間の御礼奉公の後、昭和三九年五月一日、独立して現在の東京都田無市本町に萩原商店という名で創業を開始しました。その後、萩原商店が（尙萩原紙業へと全盛期を歩んでいる間、昭和四一年に長男が、昭和四九年に長女が生まれました。

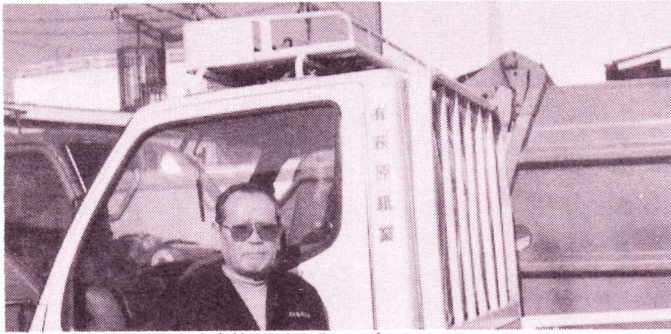
さて、創業を開始した萩原商店は、最初の五〜六年は、新聞・雑誌などをリヤカーで回収する業者が持ち込み、それを品種ごとに引き取るという仕事をしていました。

やがて、昭和四五年に有限会社萩原紙業として正式に法人化し、その頃から資源回収



業の内容も変化しました。この頃からは、ちり紙交換の基地として、一t〜二tトラックを五〇台位使い、ある程度の人員を採用して古紙を集めさせていました。当時は、都内の至る地域をこまめに回り、一t車に二t〜三tも積んで古紙を回収したものでした。また、これと平行して、新聞販売店回収、田無・立川での集団回収、坪上回収（印刷工場等の産業古紙回収）も手掛けるようになりました。特に新聞販売店回収は、東京都で最初に手掛けました。

現在では、古紙価格が下落したことや、古紙リサイクルの促進に伴い、行政回収・集団回収等の資源回収が行われ始めてきたため、ちり紙交換の仕事はなくなりましたが、新聞販売店回収・集団回収に力をいれて頑張っています。また、近年の古紙の値下がり、の影響を受けてはいるものの、



(有)萩原紙業の店先にて

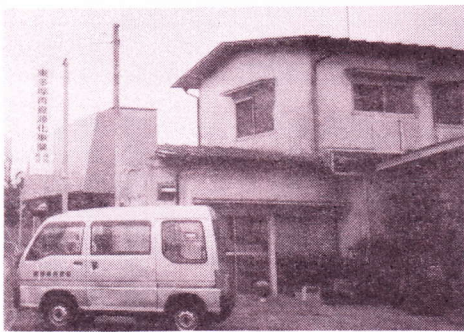
それでも順調に古紙を回収しています。これからは、東多摩再資源化事業協同組合の一員として、組合活動と(有)萩原紙業の事業に全力投球し、行政の仕事ならびに新聞販売店回収をさらに充実させていきたいと思っています。

### 組合新事務所開設

当組合では、今までの組合事務所となり、独立した事務所と倉庫を構える事となった。

そこで昨年十二月二日、当組合新事務所開所式を行い、七日の電話移設後、新たな事務所での業務を開始した。

今後は毎月の定例理事会や各委員会会議等も会場確保の心配をすることもなくなり、時間も気にせず十分な討議を



組合新事務所

重ねられる。

パソコン、周辺機器もLANで接続し事務処理の効率化を図った。これから益々活発になるリサイクル事業の重要性と多様化に対応出来るよう、資料の情報収集、蓄積、処理、提供を速やかに行えるよう、事務局能力の一層の充実が可能となった。

倉庫には当組合ブランドのトレットペーパー「ブーメラン」を保管し、今まで以上に出荷作業が効率的になった。新事務所開設に組合員一同心も新たに組合の発展に尽力し



新事務所での会議風景



ようと誓いあった。

〔組合新住所〕

東村山市久米川町一―一六―一八  
※電話、FAX、ホームページ  
のアドレス・Eメールは変わり  
ません。

第八回TAMAとこと

ん討論会の継続論議を  
開催

昨年十月二日に開催さ  
れた討論会において第六分  
科会の内容についてさらに  
論議を深めたいとの参加者  
からの要望に応え、第2ラウ  
ンドを開催します。  
テーマ 「資源リサイクル・  
ここが問題」

日時 平成十三年三月十八日  
午後一時～四時  
場所 エコプラザ多摩(多摩  
市立資源化センター)  
内容 容器包装(びん、カレ  
ット、缶等)について  
尚、同日多摩市が予定して  
いる「エコフェスタ多摩」に  
において(共同・同時)開催。  
どなたでも参加できます。  
連絡先  
○四二・三五七・四五五三  
多摩R(リ)団連事務局。

行事・行動

〔一月〕

- 四日：武蔵野市研修会講演
- 一日：日資連理事会
- 一日：定例理事会
- 三日：古紙循環プロジェクト
- 四日：清瀬市市民祭
- 六日：古紙C業務委員会
- 七日：多摩R団連幹事会
- 九日：委託事業安全会議
- 一日：多摩とことん討論会
- 二日：〃
- 二日：東村山リサイクル祭
- 三日：東京R団連幹事会
- 四日：保谷市廃棄物減量審
- 八日：古紙ネットシンポ
- 〔二月〕
- 二日：東久留米廃棄物減量  
審議会
- 三日：定例理事会
- 四日：保谷市廃棄物減量審
- 七日：日資連リサイクル委
- 八日：多摩R団連幹事会
- ：日資連金属委員会

二〇日：東京R団連幹事会  
：広報委員会

〔二月〕

- 二五日：集団回収委員会
- 二七日：小平市廃棄物減量審
- 二八日：田無市廃棄物減量審
- 二九日：東村山
- 三〇日：古紙C業務委員会
- 二日：組合本部開所式
- 四日：多摩R団連視察会  
(柳泉園・小平RC)
- 五日：古紙循環プロジェクト
- 八日：段ボール協議会
- 九日：組合忘年会
- 一日：東京R団連幹事会  
：定例理事会
- 二日：日資連理事会
- 十五日：広報委員会
- 二一日：多摩R団連幹事会  
：日資連金属委員会
- ：田無市廃棄物減量審
- 二二日：保谷市廃棄物減量審

編集後記

新年号に御寄稿下さいまし  
た高柳様、大変ありがとうございます  
ございました。

我が業界は、永い歴史を持  
ち、日本文化にも大きく貢献  
したすばらしい産業と再認識  
しました。

今年には巳年、地べたを這う  
動物です。森内閣、株価、景  
気、就職率どれも這いつくば  
っています。古紙業界も仲間  
です。

新世紀は、暗い環境でのス  
タートとなりましたが、案ず  
ることはありません。

苦しみ、悩みがあるから解  
決した時の喜びを感じること  
ができるのです。暗闇が深い  
ほど明るさを楽しむことがで  
きます。

我々も、未来を自分の手で  
切り開いて、光を手にするよ  
う努力します。

(吉浦)

